



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	月刊DRF 第6号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合; Digital Repository Federation
Description	事務局: 北海道大学附属図書館 http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
Issue Date	2010-07-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/73491
Type	journal
File Information	DRFmonthly_6.pdf





月刊 DRF

Digital Repository Federation Monthly

第6号

No. 6 July, 2010

【特集1】Open Repositories 2010

【特集2】UsrComすぐできる！リポジトリ体験

その他の記事

応募企画 川柳をつくろう お題「IRの愛称」
DRF参加機関紹介 JURA:城西大学機関リポジトリ

特集1 Open Repositories 2010

2010年7月6-9日、スペインはマドリッドで開催されたOpen Repositories 2010に参加された、国立情報学研究所 蔵川圭 先生
北海道大学 行木孝夫 先生にレポートしていただきました。

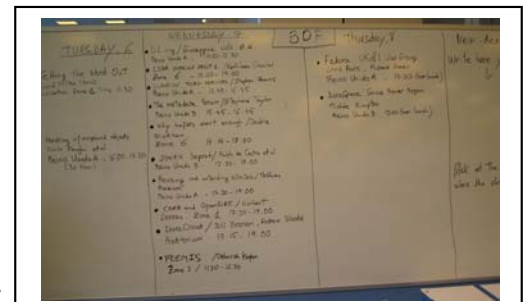
国立情報学研究所 学術コンテンツサービス研究開発センター 蔵川 圭

未来を見据えた研究教育環境づくりを志す

第5回International Conference on Open Repositoriesは、スペインはマドリッドで2010年7月6日から9日まで4日間おこなわれた。オープンアクセスとリポジトリという2つのキーワードで、現実に利用される研究インフラとして必要なものは何かを議論し、実際に利用されている状況を報告するという実務ベースの会議である。会議は大きく分けて二つの構成になっている。これからの研究教育環境としてのリポジトリに必要な要件について議論を行い先進的な実践を報告する前半、世界で最も利用されている2つのリポジトリE-PrintsとDuraSpace (Fedora, DSpace)の開発に関連した報告を行う後半である。どちらも熱い思いが伝わってくる発表で埋め尽くされ、参加者は400人を超えていたのではないと思われる。参加者の顔ぶれをみるとファンディングエイジェンシーのマネージャ、研究者、ライブラリアンが多勢であり、出版社は見受けられなかった。アカデミックサイドの活動であることが見て取れる。

最初にスタートを切る基調講演は、英国サウサンプトン大学のDavid De Roure氏からmyExperimentの紹介であった。myExperimentは、ユーザー同士が研究・実験のワークフロー(Workflow)を共有し、Linked Dataの技術を活用して公開するプラットフォームである。リポジトリにおいて、研究に関連したワークフローを共有することが重要であることをグッドプラクティスとして示した。基調講演を受けて、リポジトリに必要な視点が網羅的に取り上げられる形で各セッションが展開される。研究データ、引用と書誌、管理者用システム、リポジトリプラットフォーム、リポジトリフレームワーク、相互運用ポリシー、データ統合と曖昧性解消、デジタル保存とアーカイブ、アカデミックワークフロー、国レベルのアプローチ、利用統計、持続性とビジネスオペレーション、リポジトリインフラストラクチャ、オープンアクセスポリシーである。筆者はデータ統合と曖昧性解消のセッションにおいて、Web上の研究者名典拠を実現する研究者リゾルバーについて発表を行った。そして3日目の朝、これらすべてを受けて、研究基盤にリポジトリを統合すると題したパネルディスカッションが行われた。これから十年先を見据えて実用的な研究基盤としてのリポジトリはどうあるべきかについて、DuraSpace開発マネージャのSandy Payette、天体観測データ環境整備を行ってきたFrancoise Genova、リポジトリ運用連合COARを率いるNorbert Lossou、研究データキュレーションセンターCDLのマネージャ

Stephen Abramsが、ローカルチェアの一人Wolfram Horstmanの司会のもと、率直な意見を述べあった。



BOF (Birds of a Feather)を呼びかけるパネル

後半では、これらの総体としての著名な実装であるE-PrintsとDuraSpaceの開発に関連するテーマで報告が行われた。実装ベースの議論であるので、実際にコードを書き運用している経験をもとに具体的なモデルが議論されている。そして、ワークショップでは、利用されているプロトコルの理解やインストールしながらの動作確認、関連システムのデモンストレーションが行われた。会議全体に言えることは、Web上に展開されるオープンなリポジトリに対してこれから先の研究環境として重要な機能を見出し、それを実装してベストプラクティスを示すことが求められていることである。未来を見据えて研究教育環境づくりを志すDRFのメンバーは率先して参加すべき、世界をリードする先進のリポジトリにかかる議論と開発を行う一員となるための国際会議の一つではなかろうか。



David De Roure氏の基調講演

情報基盤をリポジトリが担う強い意思を感じる

OpenRepositoriesへは昨年を除き第一回の2006から参加しています。回を重ねるごとに規模は拡大しており、今回の参加者は400人を越えていると思われまふ。シドニーで開催されたOR2006には、CSI事業の開始当初だったこともあり、日本からは10名ほどの参加があったと記憶しています。私もHUSCAPと北大数学のプレプリントサーバの連携に関する発表をしました。OR2007は千葉大からの発表があり、日本からの参加者は5名ほど。サザンプトンでのOR2008には山地先生、池田先生も参加し、OR2009はインフルエンザ禍もあって池田先生のみにとどまりました。今回は武田先生、蔵川先生、山地先生、私ほか2名です。日本からの参加者も増えてきています。場所はマドリードの中心部、強豪サッカークラブの本拠地であるサンチアゴベルナベウの向いにある会議場でした。会場の規模を日本に例えると、一橋記念講堂とNIIの中会議室、他に会議室教室といったところでしょうか。月刊DRF向けに、いくつか印象に残った講演を中心に紹介します。



会議場の外観

セッションCitation and Bibliographyに出席しました。コンテンツ間の関連性を付与するサービスを目指すプロジェクトdoarcが印象的で、昨年12月のDRFICに参加したMeloさんから、INSPIREという高エネルギー物理向けのプラットフォームが紹介されました。セッションRepository PlatformではMax PlanckのPubMan、CERNのInvenioが印象に残りました。後者は中規模から大規模データ向けのプラットフォームです。夜はポスターセッション。45件ほどのポスターで、写真の通り会場に溢れるほどの参加者でした。

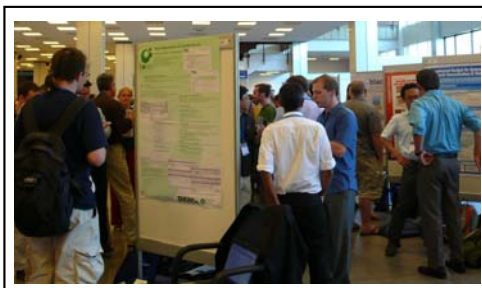
セッションData Integration and Disambiguationから、Author identifiers 1) Services at arXiv and 2) ORCID (Simeon Warner)について少し詳しく記します。

2009年3月からarxivでは著者idサービスを開始。パブリックな著者idとして、著者の他のアカウントともリンクできる。例えば、Facebookとも連携している(mixi id との連携のようなものか)。ユーザ層が違うからFacebookとの連携の効果は未だ不明である。また、INSPIREとも連携を目指す。

著者同定サービスであるORCID (orcid.org)とも連携。著者同定についての関係者は研究者、ライブラリ、機関、出版社、資金提供機関など、学術情報に関わるサービスと機関であり、contributorは著者に限らない。例えば、著者、会議報告の編集者、プログラマー、指導教員、共著者である。誰が責任をもつのが問題。OAI-OREに対し、著者と論文の対応をつけるノードを提案する。リポジトリの役割は、個人を同定する情報のソースとして、もしくは情報の利用者として、さらに機関の同定主体として重要である。

この機会に開かれたCOAR WG1のミーティングにDRFのメンバーということにして出席しました。COAR WG1としての行動方針を議論し、各国での寄与が期待されています。

参加者対象の夕食会ではドイツ対スペインの対戦がテレビで流され、歓声と嘆声入り混じる中でスペインが勝ちました。街では一晩中大騒ぎだったようです。



ポスターセッションの様子
会場に溢れるほどの参加者でした

パネルディスカッションです。eScienceを発展させる意味で情報基盤としてのリポジトリという概念を確立する意図があるようで、これを中心に発表と議論が進みました。eScienceとして特定の研究分野に特化するのではなく、大規模なスケールから小規模なスケールまで多様なデータを格納し、それを複数の研究分野から協調して取り組むべき課題へ提供することで情報基盤を確立するという方向性と思われます。データに応じて必要なメタデータを構成し、ツール群を提供するなど、研究コミュニティの情報基盤としてリポジトリを提供する意欲が見られます。全体のセッションは午前で終了し、オーガナイザーらに花束が渡されました。DRF国際会議にも来日したAliciaです。

午後からはユーザグループセッションです。前半はEPrintsに出席し、EPrintsの開発経過とロードマップが示されました。後半はDSpaceとFedoraに出席しました。

午前中がユーザグループセッション、午後はワークショップです。ユーザグループにはDSpaceのLearning Resources、Research Managementに出席しました。ワークショップはMicrosoftとSWORDです。

以上で4日分の簡単な報告を終えることにします。リポジトリの応用開発とコミュニティの現在が熱気を持って伝わってきました。なお、冒頭にも少し記しましたが、デジタルリポジトリに関する現在の私の仕事を簡単に紹介します。昨年度はSPARC JapanのもとでDigital Mathematics Libraryの日本パートを構築しています。OAI-PMHベースでハーベストしたのちに数学系のジャーナルポータルを形成し、同時にリポジトリとMath. Reviewsのゲートウェイとするものです。また、NIIの図書館連携作業部会の委員も発足時から努めています。

OpenRepositoriesへ継続的に参加すると、研究者とライブラリアンとを問わず、研究教育における情報基盤をリポジトリが担うという強い意思を感じ取れます。日本でもこの意思をどれだけ強く持てるかどうかにはリポジトリの将来が懸っているかもしれません。

UsrCom (<http://usrcom.ll.chiba-u.jp/>) は、

- ★機関リポジトリ未設置機関が試験的かつ手軽にリポジトリソフトウェアを体験できる場
- ★機関リポジトリ既設置機関が、気軽に他のリポジトリソフトウェアを試せる場
- ★機関リポジトリに関する情報交換の場

を提供するサイトです！

掲示板には「こんな質問」「こんな声」が寄せられています。

Q.「サルでもわかるメタデータ」なんて本ありませんか？

A.私も欲しい！

Q. どんなリポジトリ・ソフトがいいでしょうか？

A. XooNipsならマニュアルありますよ

A. NetCommons2を使うならWEKOかな

A. 機能重視で考えるといいかも

A. 色々試してみるのも楽しいよ

・異動先のリポジトリはDSpaceでした。UsrComが良い練習台になりそうです

・一人職場で相談相手がいないのでUsrComは助かったやう！



UsrCom強面代表

あなたも！R担当者！今すぐDSpaceでコンテンツを登録してみよう！（DSpace 1.5 でも同じです）

<http://usrcom.ll.chiba-u.jp/> の登録方法を参照し、「新規登録」で申請、承諾後emailが届きます。

新規登録

ログインするとUsrComの画面です。

DSpace1.4

DSpace1.4を使ってみよう ①

「マイ・リポジトリ」をクリックする。

自分のアカウントを作ろう ②

クリックして、アドレス入力

コミュニティとコレクションがもうできている場合は ● マークだけを順番に進んでね！

自分のアカウントでログインし直して登録開始

自分の投稿権限を作る ④

次にコレクションの作成

最初にコミュニティを作ろう

管理者モードucds1でログイン ③

「マイ・リポジトリ」から管理者でログイン



UsrCom とDRF技術グループからのメッセージ

UsrComで何をしたら良いかわからない方。まずは自分のアカウント作成、次に1件登録を。きっと登録できるまでに疑問が出てきます。そしたら一緒に解決しましょう！（yae）

UsrCom のサイトは、設定をどんなにぶっ壊しても一週間で元に戻ります。何より相談できるサポートスタッフがいます。やってみましょう！（まえばん）

失敗はこわいけどこわくない！（Ikuko）

「+α1割の努力ですぐ公開！—コピーで作るリポジトリ〜XooNips〜」 本場に「コピー」+「タダ」でできてしまうリポジトリシステムがこの世に存在！。資料を公開する場所・保存する場所が今すぐ欲しいあなた、少しのやる気で夢が現実になります。必要なものはWeb公開用のIPアドレス1個と名前解決(DNS)の設定、使っていない21世紀に発売された一応動くパソコンと、あなたのやる気と時間だけ！。ウソだ！、と思う人は一度お試しを。必要スキルは「コピー」のみ。Linux初心者でもまったく問題なし。 <http://nijc.brain.riken.jp/xoonips/index.php?Special%2FIR-Linux> USBから起動してお試しバージョンも用意。長期間のお試しにも対応中。 <http://nijc.brain.riken.jp/xoonips/index.php?Special%2FIR-USB> Windowsでの構築も可能。構築事例もあります。 <http://nijc.brain.riken.jp/xoonips/index.php?Special%2FIR-Windows> (いその)



リポジトリシステムの改善に取り組む際には、現システム標準機能の確認や他のソフトにいい機能がないかなと検証を行いたいことがありますが、そんな時にはやはりUsrCom！とっかかりとして非常に便利です。掲示板で質問もできるし、いろいろなアイデアをUsrComサイトを使い倒してGetしましょう！（のなかん）

DRF-Tech/UsrComメンバーは、「うまくいった経験」ばかり話しているように見えるかもしれませんが、その裏には山のような失敗談も持っています。（少なくとも私はそうです：））恥ずかしがらずに、どんどん質問して下さい。みんなでシェアしましょう！（堀越）



最初はわからないことが多すぎて、何から手をつけていいのか、さっぱり分かりませんでした。皆そんなもんです（よね？）。知識もスキルもまだなのですが、これからも一緒に悩んで、一緒に解決できたらいいと思います。（toku）



初めて一からシステムを構築できた時。カスタマイズが思い通りに動作した時。この瞬間の気持ち良さは経験しなきゃ、わかりません。さあ、勇気を持って「カ*イ*カ*ン」と叫びましょー！（大園）



自分達のニーズを満たすリポジトリシステムは？どのシステムが使いやすい？UsrComは、このようなあなたの悩みに答えてくれます。

図書館システムでもUsrComのようなサイトがあるといいのになあと最近思っています...（上田）

川柳をつくろう お題「IRの愛称」

大学の名前織り込む知恵比べ -田原町

・大学の名前を上手に織り込みつつ地域色も出し、耳になじんで覚えやすい…なーんて言うは易し、自分で考えてみると本当に難しい。他所のリポジトリの愛称、本当によく考えられているなと感心してしまいます。(有人)

独り言うちが一番愛称は -田原町

・深い句だと思えます。最後の「は」が利いています。一番と思えることが大事！！(壇)

DRFって何の愛称？ -岳中将

・だれとでもりぼじとりでふれんどに(結丸)

愛称を説明する時間を業務仕分け -歌蔵

・他大学さんの事例報告でこれを聞くのがひそかな楽しみでもあります。(壇)

どうよそれ？そのうち真顔で呼び始め -詠み人知らず

・わかるわかるわかるわかるわかるわかる！(潮香)
・全学会議の議題に出ていたりすると、ちょっと照れます。(結丸)

ハスカップどっちがUでAだっけ -潮香

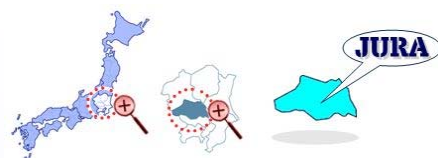
・えっ？Uなんて入ってたっけ？(笑)(有人)

応募
企画



DRF
参加機関
紹介

Josai University Repository of Academia 城西大学機関リポジトリ JURA



JURAToppページ
<http://libir.josai.ac.jp/>



3月15日に図書館視聴覚室で開催されたJURA説明会。41名の参加がありました。

Q1. 担当課担当係と運営体制をおしえてください。

図書館事務室IR担当専任職員2名で対応しています。サーバーなどの管理はSE担当スタッフが行っています。昨年度に準備委員会を5回開催し、今年度は第1回JURA運営委員会を5月に開催しています。

Q2. 導入システムは何ですか？

インフォコム(株)のInfoLibです。

Q3. 公開時の苦労話や秘蔵話、他機関と違った活動などをぜひ。

H21年1月に埼玉県地域共同リポジトリSUCRAに入りました。その間、本学独自のリポジトリ立ち上げを目指して予算申請をしていましたが、予算が認められたためH21年5月より全学準備委員会を設置し、H22年2月より本学独自のJURAを立ち上げました。JAIRに提供していたSUCRAからのベースURLをH22年4月よりJURAへと変更手続きをとりました。最初から珍しいケースとしての出発であったかもしれません。

現在もSUCRAへのデータは残しており、今後も地域リポジトリとしての関係も考慮していく予定です。紀要類はもとより、これから発行される学位論文(博士)や科研費報告書、学外発表論文の収集について、学内の関係部署と連携し自動的に集まってくるよう取り決めをしています。

Q4. JURAのチャームポイントは？(ここが気に入ってるといったところを)

簡単に登録できること、学術論文だけでなく大学の教育成果も載せているところです。

Q5. DRFに期待することは何ですか？

いろいろ教えていただけること。とても頼りにしています。今後、許諾しない学会などに交渉するようなこともできたらよいですね。

次号
予告

【特集1】突撃！隣のリポジトリ事業！

皆がやってみたい・気になる取り組みを実施機関にインタビュー！どうすればいいの？の疑問にお答えします。

【特集2】ポータル研修講師による座談会

今年の学術ポータル担当者研修がよいよ開催されます。講師陣による裏話が聞けちゃうかも。

編集後記：ひょんなことから好きなアーティストのアナログレコードをいただきました。が！当然聴ける環境はないわけでした…。アナログデータをデジタルデータに変換する技術は進歩していますが、コンテンツによってはアナログのまま楽しむことができるのが一番のような気がします。こんな、どーでも良い編集後記、書くのが夢でした。(ab)

月刊DRFでは、みなさまからのお便りをお待ちしています。gekkanrdf@gmail.com

月刊DRF第6号 平成22年7月30日発行 デジタルリポジトリ連合